

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																		
ET451002		国語科指導法演習(Seminar in Methodology of the Japanese Language Education)					教科実践																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 堀 泰樹 E-mail 内線																			
授業の概要	国語科指導法特論などにおける学習成果を基礎として、国語科教育における今日的課題の中からいくつかを取り上げ、公立学校及び附属学校園での調査等とともに、その改善策を実践的に考察する。																								
具体的な到達目標																DP等の対応(別表参照)									
目標1 公立学校及び附属学校園での調査等に基づき、国語科教育の今日的課題を、より具体的に説明できる。																1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 公立学校及び附属学校園での調査等をふまえて、国語科教育が直面する今日的課題への対応策を提案できる。																									
目標3																									
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1 国語科教育における今日的課題(前期の授業の振り返り)																									
2 大分県の学校教育が直面してきたこれまでの課題を各種学力調査の結果をもとに整理する。																									
3 大分県の学校教育が直面する今日的課題について整理する。																									
4 個別調査の計画を立て、検討を加える。																									
5 個別調査の方法について、検討を加える。																									
6 個別調査に関わる先行研究の調査報告を整理する。																									
7 個別調査に関わる先行研究の調査報告を分析する。																									
8 1次調査によって明らかになった課題を報告する。																									
9 1次調査によって明らかになった課題の報告について質疑応答する。																									
10 明らかになった課題に対する先行研究の再調査の計画を立てる。																									
11 明らかになった課題に対する先行研究の再調査の計画に検討を加える。																									
12 2次調査によって明らかになった課題を報告をする。																									
13 2次調査によって明らかになった課題の報告について質疑応答する。																									
14 研究成果を報告する。																									
15 これからの時代に求められる国語科の役割(総括)について論述する。																									
ラック ニテン イグ	A:知識の定着・確認	報告に基づき、質疑応答する。					工夫 その他																		
準備 事後 学修	時間外学修 の内容と時 間の目安	調査報告が中心となるので、授業時間以外の時間を使って調査する(25h)。																							
		質疑応答を受けて、調査研究を洗練させていく(20h)。																							
教科書	特に指定しない。																								
参考書	文部科学省や国立教育政策研究所、大分県教育委員会などのWebサイトの他、教育時事については『月刊 初等教育資料』(東洋館出版)及び『月刊 中等教育資料』(学事出版)の最新刊を利用する。詳細は、随時、授業中に指示する。																								
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10													
	各時間における質疑応答内容	60%																							
	最終課題	40%																							
注意事項	なし																								
備考	なし																								
リンク																									
	URL																								